

## 病床機能分化・連携ワーキンググループ結果概要

## 1 開催日時等

日時 平成30年8月20日（月） 19時～20時40分

場所 茅ヶ崎市保健所 講堂

## 2 参加者

計 32名

- ・医療機関 一般病床及び療養病床を有する病院 全20病院中16病院  
精神病床のみを有する病院 全4病院中1病院  
計 17病院 29名
- ・藤沢市医師会長、茅ヶ崎医師会長、湘南病院協会会長

## 3 内容

(1) 神奈川県における地域医療構想の進め方と湘南東部地域の現状について

- 県医療課より、平成30年度の地域医療構想調整会議の進め方、平成29年度病床機能報告結果等について説明。

(2) 公的医療機関等2025プランについて

- 湘南東部地域の該当医療機関（藤沢市民病院、茅ヶ崎市立病院）より、2025年に向けた方針について説明

## &lt;参加者からの質疑・意見等&gt;

- 藤沢市民病院は、今後、530床全てを高度急性期にするという計画だが、全部高度急性期というのはいずれあるのか。
- 高度急性期は医療資源投入量3000点以上という基準があり、全て高度急性期というのはいずれあるのか。3000点以上の患者の比率を見て、ある程度それに沿った分け方にした方がよいのではないのか。
- 点数は日によって変動し難しいので、簡単に、1日でも急性期だったら、急性期という考え方でもいいのではないのかと思うが、客観的な基準、指標が必要。

## &lt;藤沢市民病院&gt;

- 高度急性期の救命救急センター、ICU等から患者が転棟してきて、関連があるので、高度急性期ということで整理している。
- 高度急性期の病床数については、ご意見も参考に、今後、現実に沿った形で見直すことも検討する。

(3) 意見交換

- 各病院の今後担う役割、方針等や、診療報酬改定を踏まえた、地域で充足している医療機能や必要な医療機能について、出席した各病院に伺いながら、意

見交換を行った。

### <主な意見等>

- 救急は積極的に受け入れているが、最近、病状が安定したので、施設などへの退院を打診しても、経口摂取ができない人などは、施設が受け取れない傾向があり、在院日数の問題もあり、切実な問題になってきている。
- 施設での看取りのニーズが増えてきている。病院で看取るというより、施設や自宅に帰り、最後は病院で診断書を書かせていただいているが、最後まで施設や自宅で過ごせるよう、訪問診療のクリニックなどとも連携を深めていく必要がある。
- 精神科救急について、日本ではまだ不十分。アルコール依存、薬物依存等増えているが、身体的な疾患がある場合、精神的にどのようにフォローしていくか、難しい問題。
- 湘南東部は、2025年までは人口増加、2040年までは高齢者人口が増加し、医療介護の需要はあるが、救急が、特に冬場は対応しきれず、流出が大きい。その点を対応できるように考えていく必要がある。
- この地域は回復期が足りないと言われているが、印象として、回復期リハにそれほどニーズがあるとは感じておらず、見込と実感が乖離しているように思う。
- 回復期リハが足りないというイメージだけが先行し、他の地域の強力な医療法人が進出してきて、湘南東部が大混乱をきたすということが起きないように、県にはしっかり指導してほしい。また、今日参加している病院とは、一緒に、湘南東部医療圏で手を取りあい、市民や患者のためにやっていければいい。圏域内で対応できない疾病等を、他の医療圏にお願いするのは仕方がないが、一致団結してやっていければいい。
- 医師が充足して看護師が充足すれば、もっと需要を満たせると思うが、医師確保が課題。